













































### 入院中の肺血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)

#### 1. 肺血栓塞栓症とは?

肺の動脈に血液の塊(血栓)が詰まる病気のことです。この血栓は多くは最初に「脚(あし)」の静脈内にでき、これを「深部静脈血栓症」といいます。

この血栓が血液の流れにのって心臓に至り、肺動脈まで運ばれてきて、肺血 栓塞栓症を引き起こします。

肺血栓塞栓症は、飛行機の座席の狭いエコノミークラスで長時間座ったままという状況で起こることがあり、エコノミークラス症候群として知られています。 ひとたび発症すると死亡率が高い病気です。

#### 2. 肺血栓塞栓症の症状は?

- ① 息苦しさ・動悸 ② 胸痛 ③ 失神やショック
- ④ 深部静脈血栓症を伴っていると、下肢の腫れ、痛み、皮膚の色調の変化など。

#### 3. どんな時に発症しやすいか

長期臥床は発症の原因になります。手術を受ける患者さん、安静が必要な患者さん、骨折や外傷のあと、動くことができない患者さんなどは、発症しやすくなります。

この他に、肥満がある方、高齢の方が発症しやすいとされています。まれですが、 先天的な凝固(血を固める機能)異常が原因となることもあります。

#### 4. 手術時の発症危険度

手術を受ける患者さん個人の血栓リスク(年齢、静脈血栓塞栓症の既往、麻痺など)を踏まえ、出血のリスクなどを参考として総合的に決定します。 個々の手術によって担当医が評価します。

## 予防法

- ①早期離床
- ②水分補給
- ③ 運動療法
- ④ 弾性ストッキング着用
  - ⑤間欠的空気圧迫法
    - ⑥ 薬による予防 抗血栓薬



# おねがい

群馬大学医学部附属病院では、 手術を受ける入院患者さん、および 48時間以上の安静が必要な入院患者さんに対して、 肺血栓塞栓症予防についての説明を行います。 また、予防法の施行についての 同意書をいただいています。

ご理解の程、よろしくお願いします。



群馬大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部/循環器内科